

単元名	人文字	配当時間	1 時間
単元の目標	(1) 人数と間の数の関係について、単純な形で考えたことが複雑な形でも使えることを理解し、複雑な形を単純な形に直すことができる。 (2) 人数と間の数の関係について、簡単な場合から複雑な場合を考えることができる。 (3) 人数と間の数の関係について関心をもち、簡単な場合から複雑な場合を考えようとする。		

標準的な展開例	05040109_001
---------	--------------

【準備等】 掲示用マグネット

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 人文字をつくる時の人数を考える。[p. 92・p. 93] ○ Lの文字をつくる時の人数を求める。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★間の数と子どもの数に目をつけて考えよう。 ○ HやOの文字をつくる時の人数を求める。 ○ 「練習問題」に取り組む。	・ 3年で学習した「間の数」の内容について想起させる。 ・ アからイの8 mに限定して、人数と間の数の関係をとらえさせる。 ・ Lの文字を1本の直線に変形すると考えやすいことに気付かせる。 ・ HやOの文字を1本の直線に変形して考えさせる。 【評】人文字全体の長さとの間の数の関係に目をつけて問題を解く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】
本単元では、人文字の問題を用いて「簡単な場合を基に関係をとらえて問題解決を図る」思考法を学習する。この思考法は、複雑な問題場面を簡単な場面で調べて数量関係を考える分析・総合的な方法である。簡単な場合で考えることのよさが感じられるように、単元構成や授業展開を工夫する必要がある。
展開例では、まず (人文字をつくる人数) = (間の数) + 1 になる問題について考える中で、人数と間の関係を言葉の式に表したり、文字を1つの直線に変形したりして問題を解決する方法について学習する。その次に、その方法を用いて (人文字をつくる人数) = (間の数) になる問題について考える展開になっている。